

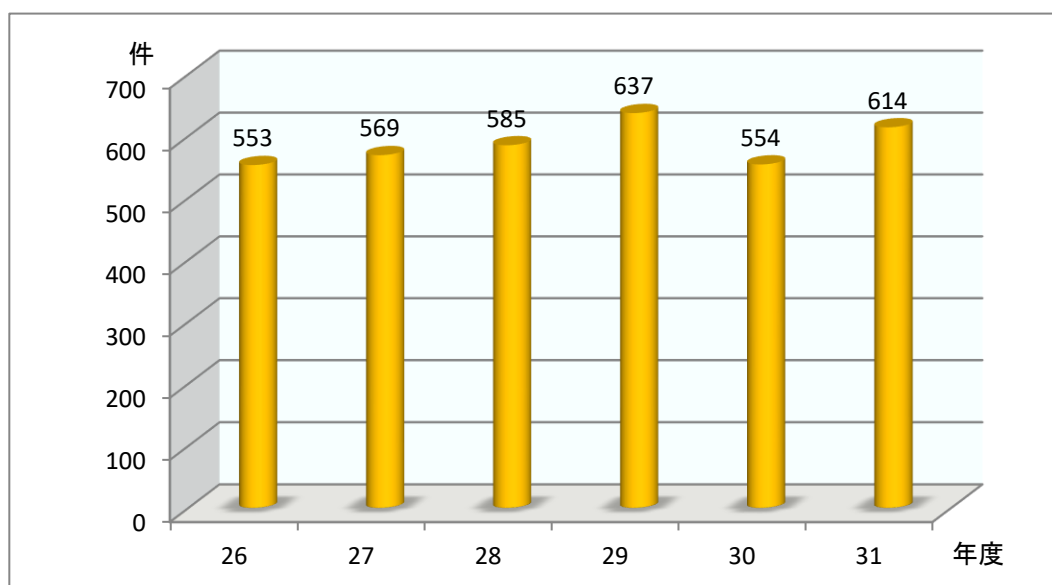
18 術中迅速病理組織診断件数

解説

術前診断の難しい疾患においては、手術中の病理診断に基づいて手術方法や手術範囲が選択されます。手術中という限られた時間の中で、迅速かつ正確な病理診断をおこなうには、院内の体制作りが重要です。

通常の細胞診や組織診であれば、院外への外注も可能ですが、術中迅速診断は一刻を争うものであり、切片の用意から診断まで院内で完結する必要があります。「最後の砦」機能を持つ国立大学病院として、高度な医療が総合的に提供されることを示す指標です。

実績



自己点検評価

術前に診断がついていない病変をはじめ、切除範囲の決定、手術続行の可否など術中迅速診断はより適切な治療を選択する上で欠かせません。この件数が多いということは患者さんにより相応しい治療法を選択するという術者の意識の表れでもあります。本学附属病院では手術室と病理診断科の間で画像と音声のやりとりができ、病理医と執刀医がより詳細に病変について検討しあえる設備が整っています。

定義

医科診療報酬点数表における、「N003 術中迅速病理組織標本作製(T-M/OP), N003-2術中迅速細胞診」の算定件数。レセプト算定ベースで算出しています。

算式

実数